

「消防学校ニュース」

平成 29 年 3 月 15 日発行

◆訓練で鍛え上げた実技を披露！ - 実科査閲(初任科第 86 期) -

初任科第 86 期は、仕上げの時期に入り、修了式を 2 週間後に控えた 3 月 8 日に実科査閲を行いました。

10 月に入校してから 5 ヶ月余、毎日厳しい訓練を重ねた学生は、鍛え上げた実技を学校長及び自身の所属する消防長や家族の前で披露しました。学生は、全寮制での厳格な団体生活や長く厳しい訓練を乗り越えて、皆逞しく成長しました。

学校長は「大変すばらしく、見事なものだった。日頃の訓練成果が

発揮されており、安全管理への配慮も実践されていた。現場に赴く準備が整った。今後も更なる技術の向上に努め、市民の期待に応えるように！」と講評しました。



消防活動訓練



救助訓練

◆火災調査科第 41 期 —実践的な知識と技術を習得—

3 月 1 日(水)から 3 月 14 日(火)まで、専科教育火災調査科第 41 期を実施しました。火災調査科の目標は、①火災調査制度を理解し、②原因調査、損害調査、鑑定等専門的知識等を備え、③文書実務知識を有することです。教科目は、火災調査の進め方、現場見分、損害調査、火災調査書類作成、模擬火災演習などです。

入校者は 59 人で、44 人は消防職員、15 人は警察職員です。警察職員の受講は 3 年前から始まり、効果が大きいため継続しています。消防職員と同様、寝食を共にしてすべての講義を受講します。消防の「調査」と警察の「捜査」、目的は異なりますが、火災原因を究明することには変わりはありません。現場調査における状況の捉え方、考え方を共有することは、複雑多様化する火災調査で有効であり、消防と警察が顔の見える関係を築いて連携を深め、さらに成果につながっていくものと期待しています。



模擬家屋火災後の火災調査の様子